

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成19年12月6日

【評価実施概要】

事業所番号	1571300449		
法人名	社会福祉法人 遊生会		
事業所名	まいらいふ		
所在地	新潟県燕市吉田旭町4丁目460-3 (電話) 0256-93-2555		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	19年	8月21日

【情報提供票より】 19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤 6人、非常勤 3人、常勤換算 7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	1階 ~	2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35000 円	その他の経費(月額)		円
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		有 無
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	150 円
	または1日あたり		1000 円	

(4) 利用者の概要 (19年 4月現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 84.2 歳	最低 69 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立吉田病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧市街地の中心部、住宅街の一角で、隣近所との距離も近い、生活感あふれる場所にホームは位置している。ホームの正面には児童公園があり、草取りをしたり、散歩をしたり、近所の人と交流したりする大切な憩いの場、生活の場になっている。春には桜も楽しめる。JR越後線、吉田駅から徒歩4~5分、国道116号線が近くを走っており、スーパーや商店も歩いてすぐの所にあるなど、生活の便が良い。建物は、既設の鉄筋コンクリート住宅を改修したものである。1階と2階が利用者の生活スペースとなっており、1階はやや手狭な感はあるが、食事の準備などで肩を寄せ合って動くあたりは、利用者職員とのふれあいを育むものである。利用者の希望を優先した日中活動、生活機能への働きかけなど、充実したケアがなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価について管理者・職員ともに話し合い、サービスの向上に活かそうという姿勢で取り組んだ。『介護計画の職員間の共有』については、センター方式のアセスメントを取り入れ、計画作成担当者や居室担当者がともにアセスメントから関わることで、利用者理解に関して大きな成果を上げている。『苦情受付』についても、受付から解決までの手順を整えていた。その他、共有空間づくりやマニュアルの作成、金銭管理についても、対応、改善がなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価を実施して自らのサービスを振り返る機会とし、外部評価結果とともにサービスの質の向上に活用するよう意欲的に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回運営推進会議が行われ、ホームの活動の経過と予定の報告、苦情対応マニュアルをはじめとする各種マニュアルの整備、避難訓練の予定、地域行事の情報などが話し合われていた。会議で検討された事柄のうちのほとんどは、実際の運営の中に活かされている。しかし、十分に活かされていないものもあるので、継続して検討し、解決を図るよう努力していくことが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情対応のマニュアルは整備されたが、整備までであり、実際の運用はまだされていない。事業所にとって苦情は宝であり、利用者や家族等からの苦情を糸口として、課題が明確になりサービスの向上に結び付いていく。苦情を前向きにとらえ、実際にサービスの向上に結び付けていくことが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	住宅地の中に位置しているという立地条件の良さは、何物にも代えがたいものである。近隣住民の理解度も高いようなので、今行なっている公園の草取りや側溝掃除などを継続して行なったり、地域の行事に積極的に参加するとともに、ホーム側の行事に地域住民を招待するなどして、地域の一員であり生活の主体である利用者を主役として相互の交流を高めていくことが望まれる。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)
 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がその人らしく住み慣れた地域で暮らしていくことを基本とした理念が作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1回、会議の場で理念を確認している。また、より実践に近いものにするべく、理念をかみくだいた実践上の指針を職員自ら作り上げている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関や共有スペースに理念が掲げられている。また、運営推進会議の中や家族の来訪時などの機会に、その都度、理念について話している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公園の草取りには近所の方から声をかけてもらい、利用者とともに参加したり、側溝掃除に協力するなど積極的に地域と関わっている。また、花見などの行事を通じて地域の方と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について職員は理解しており、自己評価は職員全員で実施し、確認している。また、前回の評価結果を受けて話し合い、改善点等をホームの運営に活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施され、行事の実施報告と予定、前回の検討事項の経過等を説明したり、苦情受付の体制整備や避難訓練の予定を議題に上げ、参加メンバーから意見を頂いている。		市の担当者や家族の方等からも様々な意見が出ているので、それらの意見を積極的に運営に活かしていくことが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者がホームの運営に関して協力的であり、管理者とは月に1回は顔を合わせて話し合い、必要時には随時連絡を取り合っている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者と職員の関係が上手く作られており、また、日頃からミーティングや勉強会の機会に職員間で話し合い、身体的なことだけでなく言葉づかい等についても振り返りを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	大半の利用者家族が近隣に住んでいることもあり、面会の頻度は高い。面会に来られた際には、利用者の最近の様子や体調などを伝えている。遠方の家族にも必要時には電話で状態を伝えている。また、3ヶ月に1回は広報誌を発行して、本人やホームの状況、行事の様子などを伝えている。		職員の異動については利用者の生活にも大きく影響し、家族の不安も大きい部分である。新しい職員についてあらかじめ知ってもらい家族の不安を軽減できるよう、広報等を通して報告をすることが望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の体制や責任の所在について、体制が整備されている。マニュアルも整備され、ホーム内にも苦情受付窓口がわかりやすい形で明示されている。		第三者委員も含め、体制はしっかりと出来上がっている。今後は、小さな意見や要望も積極的に拾い上げ、仕組みを活用してサービスの向上につなげていくことが望まれる。
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングに理事長も参加している。管理者は職員の提案や意見を聞き、可能なものについては積極的に取り入れ、運営の改善を図っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職が多い。離職があった場合は、迅速なスタッフの補充と適切な引継ぎにより利用者へのダメージの低減に努めている。		引継ぎやスタッフの補充を迅速に行ったとしても、職員の離職が多いことが利用者に与える影響は大きい。グループホーム本来の長所であるべき「馴染みの関係」も出来にくい。家族への丁寧な状況説明を行なうとともに、離職者減に向けたより一層の取り組みが望まれる。
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	緊急時対応マニュアル、食中毒・感染症対応マニュアル、防災対応マニュアル、苦情解決マニュアルなど必要なものは整えられている。感染症が発生した際の対応方法や消毒の方法等、マニュアルに基づいたりハーサルや模擬訓練なども業務の中で行われている。		マニュアルが職員に浸透しているか、実際の場面で使えるかどうかという点では十分ではない。マニュアルの基礎となる部分についての周知、あるいはより実地的なマニュアルの整備を、勉強会などを通して図っていくことが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近隣の他グループホームとの交流研修が行われており、職員にはよい刺激になっている。外部研修にも職員が交代で参加できるよう勤務を調整する等配慮している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム間で職員の交換研修を実施している。よいと思ったこと、改善が必要なことについては積極的に取り入れ、サービスを見直している。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間では意見交換を積極的に行うなどしてストレスの解消を図っているが、組織としてストレス解消に向けて取り組みを行うには至っていない。		職員は同じ信念のもとで日々の業務に取り組んでいるが、これまで職員の離職も多かった。ストレスや悩みもその一因と考えられるので、今後、軽減に向けて事業所全体で組織的に取り組んで行くことが期待される。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居されるまでにグループホームに何度か来てもらい、実際に本人が雰囲気をつかみ、なじめるかどうか状態を見ながらサービスの利用開始につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や後片付けに利用者に参加してもらったり、野菜の収穫や庭の手入れを行なってもらったりと、それぞれ大切な役割を担ってもらっているという姿勢で生活をともにしている。本人が主体となるよう言葉かけにも工夫している。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生日にケーキを作って届けたり、年賀状、暑中見舞いを家族に送ったりと関係の維持に努めている。面会の機会等をとらえて本人の状況を伝えるなど情報提供を密にし、共に支える関係を築いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護保険の更新の方から順にセンター方式にアセスメントを移行しつつあり、本人の状況、希望、生活歴の把握に努めている。入居前から続けている習慣を維持できるよう支援したり、希望に添った外出を行なうなど、一人ひとりの思いに出来るだけ応えるよう努力している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをセンター方式に移行中であり、生活歴や馴染みの暮らし方などの情報が得られ次第、順次実際の生活に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各利用者の担当者と計画作成担当者が協力し、緊密に情報交換しながら介護計画を作っている。また、作成した計画内容はミーティング時に職員全員に周知するとともに、意見を聞いて取り入れている。家族とも意見交換して介護計画に反映させている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行なうとともに、毎月職員全員でモニタリングを行い、意見や気づきを出し合って介護計画に反映させている。状態変化時は随時見直しをしている。家族とも意見交換して介護計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外に出たい、という多くの利用者の希望を受け、その日の天気や身体状況に応じて近所に散歩に出かけたり、海を見に行ったり、花見に行ったりと柔軟に対応をしている。受診の付き添いにも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所の医院からかかりつけ医として協力してもらっており、緊急時や夜間の往診の協力体制が出来ている。また、かかりつけ医が遠方である入居者についても、体調について管理者がかかりつけ医と密に連絡を取り合っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとしての方針はまだ十分かたまったと言える状況ではないが、個別のケースについては、それぞれの家族と十分に話し合いがなされている。		今後、入居者の重度化に備えて、ホームの「できること、できないこと」を踏まえてホームとしての基本的な方針を統一し、入居者や家族、主治医、職員等、関係者間で共有することが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への言葉かけについては特に注意して対応している。ミーティングや業務の中で振り返りもなされており、職員の意識は高い。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者自身がその日どのように過ごしたいかを大切にしており、散歩や理美容、買い物なども一人ひとりの希望に沿って実施できるよう支援がなされている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから調理、準備から後片付けまで利用者、職員が一緒に行なっている。また、食事も利用者と職員が同じものを一緒に食べ、話題を提供したり、利用者それぞれ好みのランチョンマットを使うなど、食事を楽しめる雰囲気作りをしている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄記録を基に排泄パターンをつかみ、日中は出来るだけ紙パンツではなく、布パンツとパットを使用して声かけや誘導を行い、気持ちよく排泄できるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数や時間など、出来るだけ本人の希望に応じている。夜間の入浴希望にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭いじりや草取り、調理や縫い物等、一人ひとりの性格や生活歴、好みに応じた役割や楽しみごとを作り、張り合いを持って取り組めるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を好む利用者が多いこともあり、ホームの前が公園という立地条件を利用しての散歩や外でのお弁当、買い物や理美容室への外出など、日常的に外出する機会を多く設けている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル等を回覧し、身体拘束がないよう徹底している。言葉による拘束もしないように気をつけている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上夜間は施錠しているが、日中は玄関の鍵をかけず、自由に出入りしている。1階と2階を行き来するエレベーターにも特に使用に制限を設けておらず、入居者が自由に使うことができる。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの行動上の特徴を職員がよく把握しており、事故を未然に防ぐよう配慮している。		事故やヒヤリハットのマニュアルや報告様式はあるが、あまり使われていない。些細なことでも報告しあい、検討・分析をすることで、事故防止につながると思える。更なる取り組みが望まれる。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	緊急対応時のマニュアルは整備されており、年に2回は消防署の協力を得て避難訓練、救急救命訓練を行っているが、ケガ等実際に起こりうる場面に即した応急手当の訓練は行っていない。		業務の中で職員間での情報交換は行われているが、応急手当の方法について定期的な振り返りは行われておらず、訓練の頻度としては少ない。緊急時の不安を軽減し確実に対応できるよう定期的に訓練を行ってスキルアップを図ることが期待される。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	避難訓練を毎月定期的に行なっている。運営推進会議でも防災に関して地域からも協力が得られるよう話し合われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分と食事の摂取量については、毎日、毎食ごとにチェックして一人ひとりの状態を把握している。体重測定も毎月実施し、体重が減っている方には医師に相談して補助食品で対応したり、体重が増えた方には運動を促すなど状態に応じて対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の写真を楽しく飾ったり、季節感のある装飾を利用者と共に作って楽しむなど工夫して取り組んでいる。家具や調度品も家庭的であり、2階部分には入居者同士がくつろげるようソファコーナーを用意するなど、利用者が過ごしやすい空間づくりをしている。換気や日差しの調節等も適宜なされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んだり、畳を好む人には畳のマットを入れたり本人が気持ちよく過ごせるように工夫している。		